日本天文学会創立百周年記念事業報告

2008 年度は天文学会創立百周年に当たり，天文学会は以下に示すような記念事業を行いました．

【1】 創立 100 周年記念出版
【2】 100 年史の出版
【3】 記念式典・祝賀会の開催
【4】 学会ロゴの公募と決定
【5】 記念切手の発売 (JP)
【6】 PASJ 半額キャンペーンとフリーアクセス
【7】 百周年記念・世界天文年記念巡回展示
【8】 土井さんが宇宙に持って行ったメダル
【9】 百周年記念公開講演会
【10】 月報の全巻電子化

以下に，それぞれの事業について簡単に紹介をさせていただき，会員の皆様に対する記念事業のご報告とさせていただきたく存じます．

【1】 創立 100 周年記念出版事業

日本天文学会の創立 100 周年記念出版事業として日本評論社から，天文学のすべての分野を網羅する教科書「シリーズ現代の天文学」(全 17 巻) を刊行することになりました．

(1) 「人類の住む宇宙」
(2) 「宇宙論 I—宇宙のはじまり—」
(3) 「宇宙論 II—宇宙の進化—」
(4) 「銀河 I—銀河と銀河団」
(5) 「銀河 II—天の川銀河系」
(6) 「星間物質と星形成」
(7)*「恒星」
(8) 「ブラックホールと高エネルギー現象」
(9) 「太陽系と惑星」
(10)*「太陽」
(11)*「天体物理学の基礎 I」
(12) 「天体物理学の基礎 II」
(13)*「天体の位置と運動」
(14) 「シミュレーション天文学」
(15) 「宇宙の観測 I—光・赤外天文学」
(16) 「宇宙の観測 II—電波天文学」
(17) 「宇宙の観測 III—高エネルギー天文学」
(*印は未刊．2009 年 7 月までに全巻を刊行予定)

このシリーズは，第一線の研究者が，天文学の基礎を解説するとともに，自らの体験を含めた最新の研究成果を語るものです．意欲があれば高校生でも読めるように，平易な文章で記述する努力がなされています．特に第 1 巻は，天文学を，宇宙—地球—人間という観点から俯瞰して，世界の成り立ちとその中での人類の位置づけを明らかにすることを目指したもので，文系・理系を問わずすべての社会人に知っていただきたい事柄が確かな科学的基礎の上に立ち，易しく解説されます．

この事業を可能にしたのは，篤志家から学会に「教科書を出して欲しい」という趣旨で寄せられた多大のご寄付です．ここに厚く感謝申し上げるとともに，多くの方々がこのシリーズにより，生き生きとした天文学の「現在」にふれ宇宙への夢を育んでいただくことを願っています．(岡村定矩)

【2】 日本天文学会百年史「日本の天文学の百年」の出版

日本天文学会百周年記念事業の一つとして，日本天文学会百年史「日本の天文学の百年」が「恒星社厚生閣」から 2008 年 3 月に出版されました．

「日本の天文学の百年」は，ハードカバー，B5 判，総ページ 378 ページ（本文 341 ページ，巻頭カラーグラビア 24 ページ）の重厚な書物として完成しました（定価は税込みで 3,465 円です）．2008 年 3 月に開かれた日本天文学会百周年記念祝賀会に合わせて，本書を出版，祝賀会出席者には引き出物として，また日本天文学会会員には無

百年史の表紙

料で配布いたしました．

本書の編纂に当たっては，2005 年 3 月に日本天文学会の中に「日本天文学会百年史編纂委員会」が発足，編纂委員 12 名が編纂に携わり，約 3 年の歳月をかけて完成したものです．

本書は日本天文学会百年史ということで編纂されましたが，単に日本天文学会の百年史だけではなく，日本における天文学全体の百年の歩みを広く取りまとめたものです．明治期の西洋天文学の導入から，多くの国際的学術成果を上げる現在までの 100 年間の日本の天文学の歩みを，50 名を超える著者が執筆したもので，また日本天文学会の資料やインタビュー記事，歴史年表も含んでおります．会員の皆様には今後とも座右の書として，折に触れご愛読いただければと願っております．

（尾崎洋二）

【3】 日本天文学会創立百周年記念講演会・祝賀会開催報告

社団法人日本天文学会は，1908 年（明治 41 年）の創立より本年で百周年を迎えました．それを記念して，去る 2008 年 3 月 23 日（日），日本天文学会創立百周年記念講演会（学術総合センター一橋記念講堂）および祝賀会（学士会館）を開催いたしました．

講演会には約 300 名の方がご参加くだされ，以下の式次第に従って執り行われました．

- 開会の辞
- 基調講演「日本天文学会百年の歩み」
  土佐　誠（日本天文学会理事長）
- 来賓祝辞
- 記念切手贈呈式
- 記念講演「天文学の百年」
  尾崎洋二（東京大学名誉教授）

当日は開場時間よりも早く来場される方もおられ，併設していた「天文学の百年写真展」をご覧いただいたり，懐かしいお仲間と話をされている方々も多く見受けられました．講演会は，土佐誠理事長による基調講演「日本天文学百年の歩み」で始まり，学会創立百年の歴史を振り返るとともに本学会事業の発展についてお話しいただきました．来賓祝辞では，渡海紀三朗文部科学大臣（磯谷桂介学術研究助成課長代読），日本学術振興会を代表して小林　誠理事より祝辞を賜り，また，IAU，アメリカ天文学会，インド天文学会，中国天文学会，台湾天文学会，オーストラリア天文学会より寄せられた祝辞が代読にて披露されました．つづいて，3 月 21 日発行の百周年記念切手の贈呈が郵便事業株式会社を代表して北村憲雄会長から日本天文学会の土佐　誠理事長へと行われました．最後に，記念講演として，尾崎洋二東京大学名誉教授により，天文学のこの百年について，特に日本での天文学の進展について世界の天文学の動向にも目を配りながら，お話しいただきました．講演終了後は写真展会場にてささやかながらワインをご用意し，短い時間でしたが懐かしい写真に囲まれる中でご歓談いただきました．

学士会館での祝賀会には，国内外からの来賓を含め 150 名の方がご出席され，正賓を楽しみながらの華やかな雰囲気の中とても和やかな会となりました．来賓の日本学術会議の金澤一郎会長，英

国天文学会会長 Prof. Michael Rowan-Robinson, 韓国天文学会会長 Prof. Young Woon Kang, ヨーロッパ天文学会会長 Prof. Joachim Krautter の各氏からも祝辞をいただきました．祝賀会に出席された方々には，特製の台紙に挟み込んだ百周年記念切手，および会員の皆様より一足早く百年史「日本の天文学の百年」を記念品としてお持ち帰りいただきました．（柴橋博資）

【4】 日本天文学会のロゴマークの制定

2008 年から天文月報の表紙の右下，あるいは欧文報告 (PASJ) の裏表紙に新しい学会のロゴマークが付いていることにお気づきでしょうか？ 月報は日本語版，PASJ は英語版です．このロゴマークは，一般公募により応募された，799 点の作品の中から最優秀作品として選ばれた仲秋広志さんのデザインを元にしたものです．選考結果報告は天文月報 2007 年 9 月号に掲載しております．ロゴマークは宇宙画家として活躍されている岩崎一彰氏に手を加えていただき，今，使っているロゴマークとなりました．

その後，岐阜大学で行われた 2007 年の秋の年会にて，最優秀賞の仲秋さん，優秀賞の伊藤真二さん，浦地思久理さんの表彰式を行いました．浦地思久理さんの作品は天文学会百周年記念として適切な作品でした．そこで，百周年記念式典では，浦地思久理さんのデザインをあちこちに使わせていただきました．また，日本天文学会創立百周年記念切手の発行とともに作られた記念スタンプにも，浦地思久理さんのデザインが使用されました．今後ともいろいろな機会に使われると思いますので，よろしくお願いします．（北本俊二）

【5】 日本天文学会創立百周年記念切手の発行

2008 年 3 月 21 日に全国の郵便局等で，特殊切手「日本天文学会創立百周年記念」が発行されました．3 月 23 日に開催した，日本天文学会百周年記念式典では，日本郵便株式会社から日本天文学会理事長へ本切手の授与式が行われました．美しい図柄の切手です．ぜひお買い求めのうえ，ご活用ください．詳しくは天文月報 2008 年 3 月号の記事をご参照ください．（北本俊二）

【6】 PASJ 投稿料半額キャンペーンとフリーアクセス

日本天文学会欧文研究報告 (PASJ) では，100 周年記念事業の一貫として，掲載料半額キャンペーンと電子版へのフリーアクセスを行いました．キャンペーン期間中である 2008 年に投稿された論文については，（出版日にかかわらず）掲載料を半額にし，また，2008 年中に限り，すべての PASJ 電子版へのアクセスを完全にフリーにしました．100 周年を契機として，PASJ を少しでも多くの人に利用してもらいたいというのが今回のキャンペーンの主目的です．実際，この目的はかなり達成されたようで，この 9 月末までの投稿数は 169 編に達し，歴代 2 位の多さとなっています．ちなみに，過去最高の投稿数は 2007 年で，特集号が 3 編出版されたことが効いているようです．

一方，フリーアクセスについては，（この原稿執筆時点で）発行継続中の 60 巻へのアクセス数が 9 月末までに 3 万件，2007 年発行の 59 巻については 9 万件と，多くのアクセスを記録しています．特に，2007 年に出版された「ひので」特集号はアクセス数が 2 万件を超えており，関心の高さが伺われます．

このように，投稿料半額キャンペーンとフリーアクセスにより，多少なりとも PASJ 利用者数の拡大が図れたのではないかと喜んでいます．

（堂谷忠靖）

【7】 日本天文学会百周年記念・世界天文年合同展示について

日本天文学会の百周年（2008 年）と，国連・ユ

ネスコが定めた，世界天文年（2009 年）を記念して，合同で展示を行うことを計画してきました．その目的は， 400 年前ガリレオが初めて宇宙に望遠鏡を向け，近代天文学を拓いてから，世界の，そして日本の天文学がどのように発展し，どこまで到達したかを，一般の人々に知らせることだと考えます．このため，昨年度より，天文学会，世界天文年日本委員会，国立科学博物館が中心となり，巡回展を計画している三つの科学館とともに，展示の内容を検討してきました．現在，来年 5 月からの展示開始を目指し， 展示内容の確定と業者選定，設計開始の準備を進めています．

1. 2009 年度巡回展示スケジュール（案）
   国立科学博物館
      5 月 30 日（土）〜7 月 12 日（日）
   仙台市天文台
      7 月 25 日（日）〜8 月 30 日（日）
   名古屋市科学館
      10 月 5 日（月）〜11 月中旬
   大阪市立科学館
      11 月下旬〜12 月下旬
2. 展示項目概要（案）
   (1) ガリレオから「すばる」まで
      —望遠鏡の発展—
         ガリレオの望遠鏡と観測成果
         すばるにいたる望遠鏡のあゆみ
         世界と日本の天文学のあゆみ
   (2) 虹が開く宇宙
         太陽と星の虹
         線スペクトルが教えるもの
   (3) 見えない光で探る新しい宇宙像
         電波，赤外線，X 線，ニュートリノ
   (4) 宇宙はどこまでわかったか
         太陽と惑星系
         星の進化：誕生から超新星爆発，ブラックホールまで
         銀河と銀河団：活動的中心核，ダークマター
         ビッグバンと宇宙膨張
3. 展示物のアイディア
   (1) 古書：金沢工大から希少本借用（ガリレオ「天界からの報告」など）
   (2) 各種望遠鏡，人工衛星の模型など：すばる，あかり，すざく
   (3) 体験コーナ（虹の性質など）
   (4) 最新の知識をわかりやすくする模型など
4. 経費等の負担

基本となる，第一段となる国立科学博物館で準備する展示品を中心に，天文学会からは総額 1,000 万円以内の支出が認められている．国立科学博物館も同等の負担を計画している．世界天文年日本委員会の募金状況により，その一部の支援が受けられれば，両者の負担を軽減する．巡回展のための輸送費，保険料は各科学館で負担することになる．（國枝秀世）

【8】 日本天文学会創立 100 周年記念メダル，宇宙を飛ぶ

超新星の発見で，日本天文学会の天体発見賞に輝いた日本人宇宙飛行士の土井隆雄さんが，2008 年 3 月のスペースシャトルのフライト STS-123 に伴って，日本天文学会創立 100 周年記念メダルを宇宙にもっていってもらいました．宇宙飛行士がシャトルに搭乗するときには，それぞれの飛行士が公式に持参する物品として，NASA などの承認を経たオフィシャルフライトキット (OFK) が 10 品目まで認められます．

2007 年 2 月に超新星 2007aa を発見しましたので，そのお祝いメッセージをお送りしたところ，「日本天文学会の活動に敬意を表して」何らかの記念品を OFK とする可能性について打診されたのが発端です．すぐに理事長とも連絡を取り，教育委員会および天体発見賞委員会の両者の合同企画として 100 周年記念メダルを OFK として宇宙を飛ばすことになり，理事会，評議員会に提案し，

承認されたものです．

デザインは天体発見賞のメダルそのものですが，学会事務所の東條さんや教育委員会メンバーとも相談して「祝　創立100周年　土井宇宙飛行士　とともに宇宙へ　2008年吉日　日本天文学会」の刻印を行ったものを宇宙へ持参してもらいました．公式な証明書とともに，岡山理科大学での年会でご披露させていただいた後，現在は学会事務所に保管してあります．（渡部潤一）

【9】 公開講演会「天文学　これまでの百年，これからの百年―学会創立百周年を記念して―」

通常の年会で行われる2008年の春の公開講演会については，創立百周年記念として，いつもよりもやや規模を大きくして，2008年3月29日（土）の午前11時から，東京・有楽町朝日ホールで開催した．土佐　誠理事長の挨拶の後，まず天体発見賞選考委員会委員長の山岡　均氏（九州大学）の講演「天文愛好家と天文研究者の100年」で，日本天文学会の特徴である愛好家の活躍とプロの連携について紹介があった．昼食休憩後には第二部として，日本を代表する天文学の各分野から，その発展と展望を紹介していただいた．小平桂一氏（総合研究大学院大学）の講演「z項から100年―「すばる」望遠鏡の時代に―」，井上　一氏（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部）の「宇宙空間からの天文学の発展」，佐藤勝彦氏（東京大学）の講演「宇宙論の現状と展望」という豪華3本立てで，それぞれの講演ではたいへん活発な質疑応答があった．今回は新規の試みとして，各講演者の著書を出版元（日本評論社，技術評論社，星の手帖社，早川書房）によって，ロビーで販売するという試みを行い，これも好評のうちに終了した．全体の入場者数は305名であった．

（渡部潤一）

【10】 月報の全巻電子化

天文月報の1巻1号は，1908年（明治41年4月）に発刊されました．それ以来，1945年と46年の2巻が戦争のため発刊中止となったほかは，月刊で発行され続けて，2007年1月号が，めでたく100巻1号となりました．天文学会事務所や大学の図書館などにはこれらのバックナンバーが揃っていますが，今の時代，インターネットでアクセスしたい，という要望は以前からありました．そこで，私が編集長を仰せつかった2005年度に，まず創刊号から10年分，新しい号から10年分をスキャンし，PDF化することにしました．5, 6年かけて，徐々にPDF化し，最後に100年分すべて，つまり，記事本文だけではなく，表紙から裏表紙まで，広告を含むすべてのページをデジタル化しようというのがもくろみでした．

作業は，ドキュメントのデジタル化を専門とするアシストマイクロ(株)に依頼し，カラーや解像度などの調整，目次の作成など，最初の年は試行錯誤を繰り返しました．そのうち，お互いに慣れて，年あたりのページ数も減ったこともあり，当初の予定よりは早く，2008年6月にすべての作業が終わり，会員に限らず，誰でも天文月報の記事を天文学会のホームページからダウンロードすることができようになりました（最新の1年間はパスワードがかかっています）．

公開後，何人かの会員の方からお褒めの言葉をいただきましたが，この事業をサポートしていただいた，理事会，編集委員会，山崎さんはじめ天文学会事務所のみなさん，ホームページ編集作業を行ってくれたアルバイトの方々のおかげだと思います．スキャン用のバックナンバーを提供していただいた会員の方にも感謝申し上げます．

この電子版バックナンバーが，天文学会会員はもちろん，一般の天文ファンの方々のお役に立てれば幸いです．（和田桂一）